

## 【社会 全国統一への動き③】(まとめ)

☆織田信長たちが行ったヨーロッパとの貿易

●この頃のヨーロッパで勢力が強かったポルトガルやスペインとの貿易を行う。⇒ヨーロッパの品物や文化が入ってくる(パン、カステラ、カルタなど)。

●新しい考え方であるキリスト教が伝わる。

「外来語」として現在も使われている。

**ザビエル(フランシスコ=ザビエル 1506~1552年)** 教科書 P130 肖像画

- スペインの<sup>せんきょうし</sup>宣教師(キリスト教を外国に伝え広める仕事をする人)
- 1549年<sup>かごしま</sup>鹿児島県に入って、西日本の各地を回ってキリスト教を伝える。
- ザビエルの後も、多くの宣教師が来日し、キリスト教を広めた。

●<sup>ぼう</sup>鉄砲や<sup>きいと</sup>火薬、中国の生糸などを輸入し、日本からは主に銀を輸出した。

●ポルトガルやスペインの船が、長崎や平戸(長崎県)など九州の港を利用。

[織田信長が外国との関係を強めたのは・・・]

- キリスト教を保護することで、新しい技術(鉄砲のつくり方など)や考え(キリスト教)を学び、新しい考え方を取り入れた政治を進めたかった。
- ヨーロッパとの貿易で得た武器(鉄砲や火薬)で戦いに勝ち、多くの富を得るなど、どんどん勢力を強めるのに役立った。

### <解説>

教科書 P137 ひろげる ページ「世界との関わりーキリスト教のヨーロッパと日本」

●16世紀のヨーロッパ(日本では戦国時代)では、ポルトガルやスペインが勢力を伸ばしていた。その両国から支援を受けていた「キリスト教」は、他のアジアやアメリカ大陸にも広めようと活動していた。

●日本でも、キリスト教の教えを受けた大名(キリシタン大名)が積極的にヨーロッパへ派遣することがあった。= <sup>てんしょうけんおうしせつ</sup>天正遣欧使節(4人の少年使節)

教科書 P137 「海をわたった少年使節」、ア 「伊東マンショ」

終わったら、「NHK for School『歴史にドキリ!』第10回」を見よう♪  
<https://www.nhk.or.jp/syakai/dokiri/>